

2015～2016年度

# Weekly Report



【市貝町 芝桜公園】

2016. 3. 31 NO. 2792

国際ロータリークラブ会長テーマ 「世界へのプレゼントになろう」

国際ロータリー第2550地区

真岡ロータリークラブ会長テーマ 「入って学び 出でて奉仕せよ」

真岡ロータリークラブ 会長 田村 浩次

- 司会 副SAA 久保 賢司 君
- 点鐘 会長 田村 浩次 君
- ロータリーソング 四つのテスト

■会長挨拶 会長 田村 浩次 君



皆さんこんにちは。昨日・今日とだいぶ暖かくなり、身近な桜も開花している状況であります。

この時期、4月には子供たちの入学式があったり、4月1日に入社式を行う会社もあると思います。当社では、久しぶりに新入社員を迎え入れる事が出来ました。明日は、簡単な入社式を行う予定になっており、大変楽しみにしております。

今日は、3月31日年度末と言う事で皆様の業種の中ではお忙しい日に当たりますけれども、この様に例会に多くの参加を頂きまして誠にありがとうございます。

今日は、内部卓話を宇都宮証券の宗像さんをお願いしてある訳であります。金融業界に身をおかれて大変お忙しい中、また厳しい日々にも関わらず卓話を快くお受け頂き、誠にありがとうございます。会員の皆さんの中にも金融取引をされている方が数多くいらっしゃるでしょう。その様な中で、今日の卓話テーマが「当面の株式市場について」の内容であります。それ以外にも色々なお話が期待できるでしょう。金融商品を扱っている証券業でありますので、色々な制約等があるのは間違いありません。そ

れでも、出来る限り多くの情報をお聞かせいただければと思います。

私の長男も、証券関係の仕事に就いております。めったに帰って来ない息子ですので、一切仕事関係の話は聞く事が出来ません。そんな事もあり、今日の宗像さんの卓話を聞いて私なりに息子の仕事の内容を知ろうと楽しみにしている訳であります。また、「実はここだけの話」という情報を期待している方々が会員の中にも少なからずおられると思いますけれども、この点につきましては、ロータリアンの信条である「四つのテスト」に照らし合わせ、宗像さんには、無理なく、気楽に卓話をお願いできればと思います。

## 月曜日

宇都宮90⇒東武ホテルグランデ  
小山中央⇒思 水 荘

## 火曜日

真岡西⇒フォーシーズン静風  
宇都宮⇒東武ホテルグランデ  
宇都宮東⇒ホテルニューイタヤ

## 水曜日

益子⇒益子カントリー  
しもつけ⇒石橋商工会館

## 木曜日

宇都宮西⇒東武ホテルグランデ  
宇都宮北⇒宇都宮グランドホテル

## 金曜日

小山東⇒ウイ・テ・マリアージュ

会長 田村浩次 幹事 久保康夫 会報委員(市村忠男・柳田尚宏・坂本光・太田浩彰・渡邊佳寛)

事務局

〒321-4305 栃木県真岡市荒町1203(商工会館内)

TEL 0285-84-2511 FAX 0285-84-2510

e-mail:rc-moka@sweet.ocn.ne.jp

**■幹事報告**

幹事 久保 康夫 君

・長嶋直前ガバナーが逝去されました。27日午前4時31分63歳でした。脳出血と言う事でした。

卓話を頂いた時には、確か心臓外科医をされていたと思いますが、視力が低下したために現在は心筋梗塞のケアをしていると聞いた覚えがあります。

真岡RCからは岡本直前ガバナー補佐・海老原直前会長・田村会長の3名でお通夜に参列して来ます。第4グループとして生花を1基上げさせて頂き、真岡RCからは香典1万円を出させて頂きます。

**・例会変更のお知らせ**

真岡西RC4月5日火曜日の例会は移動例会となります。

下野RC4月13日水曜日例会は10日の創立20周年記念式典を行うため振替休会となります。

・皆さんに何回もお願いしております親睦家族旅行ですが、まだまだバスの座席に余裕がございます、皆さん万障お繰り合わせの上、参加して頂ければと思います。

・4月5日火曜日は花見例会ですので、4月7日木曜日の例会は振替休会です。間違えないようにして下さい。

**■委員会報告**

副幹事 市村 忠男 君

4月3日日曜日、次年度役員の地区協議会・研修会がございます。当日出席して頂ける方は4月3日8時に商工会議所玄関前にお集り頂くようよろしくお願い致します。お忘れのないようお願いします。

**■本日のスマイルボックス**見目 良一 君  
柳澤 正弘 君

田村浩次 会長

今日は年度末にもかかわらず、多くの会員の例会参加ありがとうございます。

宗像さん、卓話よろしくお願いします。

久保康夫 幹事

宗像さん卓話ありがとうございます。年度末にもかかわらず多くの方に御出席頂きましてありがとうございます。

大越青少年奉仕委員長バレーボール反省会お疲れ様でした。

岡本俊夫 会員

宗像支店長卓話御苦勞様。手っ取り早く株で儲ける方法を御教授下さい。

大越委員長・柳田君・坂本君26日はお世話になりました。長嶋PGご冥福を祈ります。合掌。

石田順一 会員

過日、幸子姫と共にワン君の結婚式参加のため、ホーチミンシティに行って来ました。盛大なパーティで両親とも楽しく、時間を過ごさせて頂きました。ちなみに、幸子姫はアオザイを着ての参加、グラマーで中々でしたよ。

海老原 均 会員

宗像拓会員、本日の卓話ご苦勞さます。冷え切った今を乗り越える手法を教えて頂ければと思います。

前年度ガバナー長嶋様のご冥福をお祈り致します。

大越正和 会員

3月26日バレーボール反省会では、お忙しい中、皆様に参加して頂きまして有り難うございました。お世話になりました。

柳澤正弘 会員

宗像支店長本日の卓話「当面の株式市場について」大変興味深く、楽しみにしております。どうぞよろしくお願い致します。頑張ってください。



皆様、改めましてこんにちは。宇都宮証券の宗像でございます。

本日は、このような卓話の機会を設けて頂きまして誠にありがとうございます。話下手な人間なものですから、ちょっと聞き辛い点もあるかと思えます。ご了承願います。

日頃、当社の方で私が毎月1回セミナーをやっています、私が1時間弱話をしている訳ですが、セミナーという程の堅苦しいものではなく、お客様ほんの数人との座談会のような形で、毎月第3水曜日に行っております。今日お話しさせて頂いて、もっとお聞きになりたいと言う人がいらっしゃいましたら、是非ご連絡を頂ければと思います。

先ず、簡単に当社の案内をさせて頂きますと、宇都宮証券は東海東京フィナンシャルグループのグループ会社でございます、栃木県内6店舗で現在営業しております。100人足らずの小さな会社ではありますが、地元密着という事で創立105年、今期106年目に入りました。栃木県内、一部茨城県筑西市方面も営業エリアに入っておりますが、ほぼ栃木県内のお客様と取引をさせて頂いている状況であります。

では、早速皆様の非常に大きな期待を感じつつ、それに答えられるかどうかちょっと不安ではありますが、始めさせて頂きたいと思えます。資料のページに沿って私の補足を入れながらお話しさせて頂きます。

日本の株式市場も、今や、海外の動向抜きには語れない状態になっています。外国人投資家の売買比率は約7割近い状況であります。世界のお金が駆け巡る中、各国の景気や経済状況などが大きく影響を受けるという形になっています。その外国の景気の動向を簡単に図で表したものが2ページ目です。まず大きな市場といたしまして、アメリカは景気回復局面という事で、昨年暮れにゼロ金利政策を解除しまして利上げに踏み切りました。今までがゼロ金利政策という異常な事態でしたから、金融正常化という状況に来ております。ただ、この利上げに伴いまして市場はドル買いで反応し、特に新興国の通貨が流出してドル買いに行く流れが生まれました。ドルが買われると、ドルが上がってしまうのでアメリカ輸出企業にとっては、業績悪化懸念になります。ですからこの景気回復という中で一方では今後もドル買いが続くと逆に業績悪化が出てくるという事で、当初年4回の利上げをする方向性でありましたが、直近では今月FRB(米国連邦準備制度理事会・連邦準備銀行)のイエレン議長の話にもあった通り、年2回に抑え、当面4月の利上げは無いという方向性になっています。逆に米国が失速する可能性があるのではないかという話も最近では出てきています。

もう一つの大きな市場はヨーロッパなのですが、ギリシャ問題などがあった頃のどん底から、今は緩やかながら一応景気回復の局面にあります。欧州の場合はすでに昨年マイナス金利を導入しており、低インフレで成長が非常に緩やかです。今後金融の緩和が続くという形です。

最後に新興国につきましては、やはり中国の影響が昨今非常に大きくなっていて、中国の景気減速から物の需要減が、原油安、鉄などの資源安に繋がっており、商品市況の悪化に繋がっています。商品市況が悪化すると、ブラジル・南アフリカ・ロシアなどの商品を売る国の景気が悪くなる、もしくは、通貨が安くなるというような流れになります。ただ、原油に関しては、私個人の考えですが、WTI原油価格は先日の26ドル台で当面の安値を付けたと思っています。いったん40ドルまで戻し、現在は38ドル近辺ですが、底は打ったと思います。ただ、今後しばらくは30ドル台、上がっても50ドル台まで行かないかという状況が続くかもしれません。

中国のGDP成長率は6.5%ですが、今後5カ年計画で

6.5%を維持すると、全国人民代表大会(全人代)で先日出ましたが、それらを勧案すると資源に関してはさほど上らないとも言えそうです。中国では全人代でゾンビ企業の問題を解決するなどの対策が一応出されております。今後景気が落ち込む中でソフトランディングさせることができれば、マーケットも落ち着いた動きになるのではないかと思います。

3ページ目は、今お話ししたような世界的な流れをまとめたものになります。世界的に低インフレ傾向、日本もそうですが物価上昇率は未達になっており、これは原油安と大きく絡んでいます。ECB(ヨーロッパ中央銀行)は緩和を続け、日銀もマイナス金利を導入しました。FRBの利上げは失敗だったと記しましたが、結局2回に減るという事で今後しばらく世界的な低成長が続くと考えられています。

新興国に関しても中国は鈍化、ブラジル、ロシアも低迷しています。ただ、インドだけは今のところ好調を保っています。インドは資源国ではないので、資源を輸入し、使う国です。現在の資源安がプラスに働いています。今も7%以上の成長を持っておりまして、唯一BRICsと呼ばれる新興国の中でインドだけは好調です。もう一つ、世界的な問題として各地でテロが非常に多くなっておりまして、イスラム中東問題は只今のところマーケット上に影響はあまり出ておりません。

諸々の世界情勢を鑑み、株価の下落要因などをまとめたのが4ページです。アベノミクスに対する期待の剥落から、国内景気回復期待の後退が見受けられます。日銀はマイナス金利政策を実施してその役目を終え、政府にバトンを渡しました。現在政府からまだ具体的な経済政策は出ていませんが、5月のサミット、7月の選挙が目前に迫る今、サミット前には何かの策が出るのではないかと若干は期待されています。来年の消費増税に向けた景気不安もありますが、延期の可能性が囁かれています。

中国の景気不安、人民元安に伴うインバウンド(訪日観光客)需要減速懸念もあります。現在それほどの落ち込みは見られませんが、今後の中国経済の動きによっては落ち込む可能性もあります。その他、米国の景気停滞、地政学リスクの高まりなどを考えると、株価は騰がらず、逆に下がるであろうという見方もできます。ただし、市況は先述しました政府の動向にかかっており、4月から5月が転換点になるとも言えそうです。4月は株価が騰がり、5月に売られるというのがここ数年の傾向ですが、今年の場合は7月の選挙まで株高を維持できるかどうか現在の焦点になっています。

5~6ページはアベノミクスが始まってからの株の売買状況です。実はこの3年間株を買っているのは外国人投資家でした。国内の個人投資家は「騰げれば売る」を繰り返し、ずっと売り越しで来ていました。ところが最近、やはり売り越ししていた法人が買い越しに転じています。特に自社株買いが目立ち、直近ではソフトバンクや日産自動車が大規模な自社株買いを発表しています。

さらに信託銀行が大きく変わり、ここ2年ほど年金資金の運用として株を買っています。各機関が積み立てられた年金の25%まで株を買うことにしましたので、積極的に日本株を買えるわけです。

事業法人の自社株買いにはマイナス金利政策が影響しています。民間銀行は日銀に金を置いておけない以上、安い利率でも企業に貸し付けるしかありません。法人は借入金で自社株買い、設備投資をすることもできます。自社株買いは、今後の株価動向を占う一つのポイントになりそうです。

続いて7ページには企業業績について書かれています。今まで自動車関連企業を中心に、円安、原油安、インバウンド、北米での好調な売り上げなどによって最高益を更新し、業績

が上向いてきました。

しかしながら、米国の利上げ以来、円を買う動きが出てきました。金利が上がるとその国の通貨も騰がるはずなのですが、新興国通貨は米ドルに向かったものの、他の通貨は円に向かいました。リスクオフのために一端安全な円を買っておこうという流れです。これにより、1月以降円高が進んでおります。円高に伴い、3月期に大幅減益となった日本企業が目立ちます。4月以降の業績発表では下方修正や減配などが増える可能性が高いです。

その辺を考えると個人的には株は大きく上がらないと感じますが、その中でも、国の政策に見合うような好材料を持っている分野は株が騰がるのが期待されます。自動運転、バイオ（遺伝子治療など）、フィンテックなどの成長戦略部門、売れすぎた銘柄の修正、増収増益企業、2～3年前前から言われているROE（株主資本利益率）拡大期待銘柄などですが、まだ動きが出ていない分野もあります。

業種の説明の前にマイナス金利導入の影響に触れます。マイナス金利導入以来、企業の手元流動性が変化し、資金の移動が見られます。利回りが枯渇し、10年国債もマイナスになる今、債券運用による収益は期待できません。資金がそのまま株式に流れるかどうかは疑問ですが、配当の良い企業は利回り面で買われる可能性があります。以前は株価が下がっている局面ではPBR1倍割れ（株価の総額が解散時の資産価値を下回っている企業）が注目されましたが、現在ではキャッシュリッチ（手元資金が潤沢な企業）が目をつけられるようになっています。ちなみにキャッシュリッチである企業の代表としては、手元にドルベースで資金を保有している任天堂が挙げられます。

また、マイナス金利導入以来、恩恵を受けているのが不動産投資信託（REIT）です。REITは不動産を買い取り、賃料収入や売買益を投資家に還元する仕組みですが、現在は安い利率で資金を調達できてコストを抑えられる分、好調になっています。今後も特に日本国内のREIT（J-REIT）は注目されると思います。

9～10ページに今後の見通しがあります。減益の企業が増え、一株当たりの割安感は薄れて割高になってきていますので、株価全体としては騰がらないと見ています。為替も円安は昨年の125円で頭を打ったと思っています。3年間円安が続きましたので今後120円以上の円安になる局面は少ないでしょう。

このような中、どういう株が動いているかといいますと、11ページのグラフにある通り、マザーズを中心とする小型株が直近非常に良くなってきています。銘柄としては12ページに挙げた「テーマを持っている企業・政策に乗った会社」ということになります。車の自動運転では米国のGoogleが有名ですが、アベノミクスが始まった当初、自動運転は2020年代後半の実現を想定していたところ、急速に技術が発展し、足許では2020年に実現すると言われるようになりました。官民挙げて今後も力を入れていきますので、12ページにある関連銘柄などは注目すべきだと思います。特に去年上場するはずだったZMPという自動運転・ロボット関連企業が今年上場しそうですから、おもしろい存在であると言えます。

13ページの有望テーマ②にはゲノム治療薬を挙げました。遺伝子治療のバイオ関連企業が大きく伸びています。「そーせいG」や「ペプチドリーム」などは株価を急激に騰げました。その他にも伸びる可能性のある銘柄があると思われます。

14ページにある第三のテーマは「フィンテック」です。フィンテックとは「ファイナンス」と「テクノロジー」を合わせた造語ですが、リーマンショック以降、このような金融とITを融合させたトレンドが登場しました。簡単に言えば、スマホのカード決済、個

人資産管理アプリ、Web決済、クラウド会計ソフトなどの総称です。最近では仮想通貨のビットコインが話題になりました。この辺の関連企業も株価はかなり騰がっています。特に「ISID」と「メタックス」という会社は個人的におもしろいと思います。

ご紹介した3つの有望テーマに関連する企業の中には直近新高値を獲っている銘柄もあります。大手では「カゴメ」や「ライオン」などですが、東南アジアなどでの消費増が売り上げ増につながっているようです。インバウンド関連では化粧品や薬も扱う「ウエルシアHD」なども新高値になっています。

以上ご紹介したような特徴や材料を持った銘柄は当面投資対象になるでしょうが、私個人は全体的には騰がらないと思っています。また、この資料は今までの既成事実を挙げ、それに基づいて予想したものです。予想は反対から読むと「うそよ」になりますが、私は嘘つきではありませんので、さらに詳しいことをお聞きになりたい場合はどうぞご連絡下さい。

うまく話せなくて申し訳ありませんが、「ここだけの話」は用意してきませんでした。この辺で話を終わらせて戴きます。ご清聴ありがとうございました。



■ 出席報告 出席委員 石井 誠 君



■ 副S A A 久保 賢司君



